

リアルオプションと戦略

2016 August

Vol. 8 No. 2


 日本リアルオプション学会
The Japan Association of Real Options and Strategy
<http://realopn.jp>

巻頭言

リスクに踊らされない経営のコツとは [小林 孝明] ————— 1

大会
JAROS
2015

研究発表大会 講演要旨

龍言におけるサービスの生産性向上の取り組みと価値創造 [宇津木 洋行] ——— 2

公開
研究会
2016

講演要旨

無形資産と企業評価 ～実例から見るゴルフ場の評価～ [佐藤 茂] ————— 6

無形資産と減損テストに関する雑考 ～LVMH と東芝を例に～ [大谷 毅] ————— 12

弁護士ドットコムの実績ストーリー [元榮 太一郎] ————— 19

アメリカ陸上中小油田／ガス田ビジネスの世界 [清水 陽一郎] ————— 23
～権益投資とディールの実務を中心に～

今あらためて注目される免疫力を用いたがん治療 [矢崎 雄一郎] ————— 31

査読
論文

不確実性下の戦略的電力需給マネジメント [高森 寛、横山 隆一、山下 大樹、新村 隆英]
ーフォワードおよびオプション契約の活用とシナリオ戦略技法ー ————— 34

学会ニュース

第8巻 第2号

目次

巻頭言

リスクに踊らされない経営のコツとは	小林 孝明	1
-------------------	-------	---

JAROS2015 研究発表大会 講演要旨

〈セミナー:「地方創生と価値創造イノベーション」より〉

龍言におけるサービスの生産性向上の取り組みと価値創造	宇津木 洋行	2
----------------------------	--------	---

公開研究会 講演要旨

無形資産と企業評価 ～実例から見るゴルフ場の評価～	佐藤 茂	6
---------------------------	------	---

無形資産と減損テストに関する雑考 ～LVMHと東芝を例に～	大谷 毅	12
-------------------------------	------	----

弁護士ドットコム の成長ストーリー	元榮 太一郎	19
-------------------	--------	----

アメリカ陸上中小油田／ガス田ビジネスの世界

～権益投資とディールの実務を中心に～	清水 陽一郎	23
--------------------	--------	----

今あらためて注目される免疫力を用いたがん治療	矢崎 雄一郎	31
------------------------	--------	----

査読論文

不確実性下の戦略的電力需給マネジメント

—フォワードおよびオプション契約の活用とシナリオ戦略技法—

高森 寛、横山 隆一、山下 大樹、新村 隆英	34
------------------------	----

〈学会ニュース〉

日本リアルオプション学会 2016年度 公開研究会記録	5
-----------------------------	---

本誌「リアルオプションと戦略」は、国内外に公開される電子ジャーナルとなります	11
--	----

論文誌「リアルオプション研究」原稿募集のご案内	30
-------------------------	----

Call for Paper: International Journal of Real Options and Strategy	33
--	----

学会だより	44
-------	----

編集後記	44
------	----

2016年度 第9回 公開研究会へのご案内	44
-----------------------	----

巻頭言

リスクに踊らされない経営のコツとは

小林 孝明

(日本リアルオプション学会理事・『価値創造のイノベーションと戦略』研究部会主査

((株)野村総合研究所)

◆新たな研究テーマの創生

2014年度より、日本リアルオプション学会の研究部会として『価値創造のイノベーションと戦略』部会を立ち上げた。研究部会は学会活動の一環として、ある特定のテーマを深掘し、集中的な研究を行う公式の集まりである。

本研究部会は日本リアルオプション学会の中でも、一風変わったスタイルの研究部会であると認識している。土台にあるコンセプトは“オープン&イノベーション”である。“オープン”は、古くから、さまざまな場面で謳われるキーワードだが、本研究部会では、さらにオープンなディスカッションを、オープンな場で、オープンなメンバーと展開することで、参加者が互いに切磋琢磨し、決して学会内だけの内輪で完結することのないよう、常に外部成長の根を張っておきたいという思いを表したものである。もう一方の“イノベーション”は言うまでも無く、企業が価値創造を継続していくために必須の活動である。特にわれわれは、広義の意味でのリアルオプション思考に基づく経営手法やリスクへの柔軟な対応について、事例研究を中心に考察を深めたいという視座からイノベーションを見つめている。

この“オープン&イノベーション”のもと、実業界においてイノベティブな事業戦略を実践している企業や実務家をお招きし、その成功要因の形式知化を試みている。既に20例ほどのイノベーション事例研究を行い、おぼろげながら見えてきたファクトがある。それは、リスクに翻弄されない経営を実践している企業に特有の、ある種の¹コツがあるということである。

◆エマージング・リスク

ところで、最近の目新しい経営ワードというと、「クラウド経営」や「ブロックチェーン」「オムニチャネル」など、きりがありませんが、共通して言えるのは、企業経営を前進させるためには、積極的に新しい経営機能を理解し、取り入れていかねばならないということだ。とすれば、同時に新しいリスクも顕在

化することにもなる。

先進的な海外企業では、このような新しいリスクを“エマージング・リスク (Emerging Risk)”とカテゴライズし、『現在は思いつきもしないが、経営に悪影響を及ぼす可能性のある事象』として企業経営の中で積極的に管理していく試みが見られる。例えば米国アクチュアリー協会のサーベイによると「中国経済のハードランディング」などの経済リスクから「国際テロ」などの地政学的リスクまで幅広いカテゴリーを管理している事例が見られるが、特にユニークな「磁気嵐によるコンピューターへの被害¹」をエマージング・リスクとして管理している事例がある。そこまで管理するべきか、と疑問に思われるかもしれないが、きちんとした経営の方針があって、あえて管理しているのである。

◆リスクに翻弄されない経営

前節で「リスクに翻弄されない企業特有のコツがある」と記したが、それはエマージング・リスクを常日頃からリスク管理の対象とする経営を実践しているということである。定常業務から発生する従来型のリスク(例えば、未回収など信用リスクや資金調達など財務リスク)は当然リスク管理の対象であろうが、それに加えエマージング・リスクを積極的に取捨選択し、リスクに翻弄されるのではなく、逆にそのリスクから得られる収益を最大化することを可能とする経営方針である。

実際、われわれは研究部会を通して、このような従来型のリスクとエマージング・リスクのバランスを取りながら経営を拡大している企業の姿を目の当たりにしており、決して机上の空論などではないと確信している。まずは、リスク管理に掛かる労力のうち1割からで良いので、エマージング・リスクへ経営資源の配分を検討してはどうだろうか。

本研究部会・学会では、微力ながらも皆さまのお役に立てるよう、これからも事例研究を継続していきたい。

¹ 1989年3月に磁気嵐により、カナダのケベック州に大停電が発生し、この電源消失が9時間続いた。

日本リアルオプション学会機関誌
リアルオプションと戦略 第8巻 第2号

2016年8月31日 発行

(機関誌編集委員会)

委員長：高森寛

委員：森平爽一郎、中岡英隆、伊藤晴祥

発行所 **日本リアルオプション学会**

THE JAPAN ASSOCIATION OF REAL OPTIONS AND STRATEGY

事務局本部：

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋1丁目ビル5F

早稲田大学ファイナンス研究センター

事務業務担当：

〒104-0033

東京都中央区新川2-22-4 新共立ビル2F

電話：03-3551-9893 FAX：03-3553-2047